

かんきょうしょうやくしましぜんほごかんじむしょ やくしませかいいさん
発行：環境省屋久島自然保護官事務所（屋久島世界遺産センター内）
〒891-4311屋久島町安房2739-343 TEL:46-2992 FAX:46-2977



COOLBIZ

クールビズ

屋久島国立公園
Facebook



屋久島と外来種の話

外来種という言葉をご存じでしょうか。もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを指します。環境省では、問題を引き起こす海外起源の外種を**特定外来生物**として指定しています。具体的な例としては、沖縄本島や奄美大島に持ち込まれたマングースが有名です。特定外来生物は、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いが法律で規制されています。

屋久島でもこれまでに様々な外来種が確認されています。屋久島のように温暖な地域では様々な外来種が簡単に定着しやすいため、外来種を自然界へ放つことは避けなくてはなりません。

島の国立公園内や世界遺産地域内で深刻な影響を及ぼしている外来種はまだ確認されていませんが、住宅地周辺でみられる**特定外来生物**に注目してみましょう。

故郷の景色が変わってしまいます



オオキンケイギク(俗称トッコウバナ)

北アメリカ原産。開花期は5月頃。自然界へ広がる
と在来植物の生育場所を奪うほどふえます。引き抜きした
あと枯死させて防除します。現在、海岸や山間部への道
脇で特に警戒中です。

池や金魚鉢で育てない



ポタンウキクサ(ウォーターレタス)

池や流れの緩い淡水の河川で育つ浮き草です。繁殖
力が非常に高く、世界各地で在来水草と競合したり、
水路を詰まらせたりと特に問題になっている種類です。

屋久島で確認されている特定外来生物は以上の4種です。島内の一部地域では防除活動を実施しています。これらの他にも外来種の中で、地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのある侵略的外来種が多数確認されています。屋久島の自然生態系への影響や、外来種被害を予防するために以下に挙げる外来種3原則を忘れぬよう、ご協力をお願いします。

毒牙あり！触らないで！



腹部の腹側に
赤い砂時計マーク



ゴケグモ類(ハイロゴケグモ、セアカゴケグモ)

猛毒をもちます。植木鉢や屋外のベンチの下、配電盤
など、人が頻繁に触れない場所に潜んでいることが多
いです。防除する場合は靴で踏むなどして対処します。

爆発的にふえます



オオフサモ(パロットフェザー)

日当たりの良い淡水で育ちます。他地域では防除に
多額の費用がかかっています。屋久島には貴重な湿地
もあるので、絶対に本種を移動させないこと。南米原産
とはいえ低温、乾燥、潮風にも強い種類です。

無許可での飼育や栽培は違法です。

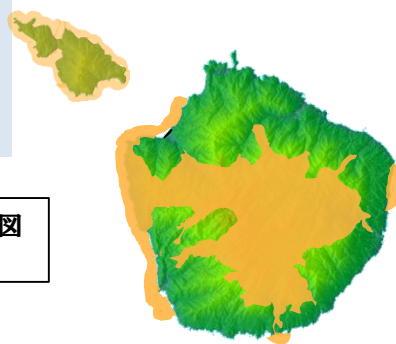
1. 入れない ~悪影響を及ぼすおそれのある外来種を自然分布域から非分布域へ「入れない」。
2. 捨てない ~飼養・栽培している外来種を適切に管理し、「捨てない」(逃がさない・放さない・逸出させないことを含む)。
3. 拡げない ~既に野外にいる外来種を他地域に「拡げない」(増やさないことを含む)。

レンジャー川柳
できるなら
いないといいな
外来種

レンジャー川柳
巡視あと
汗だくごめん
ディスタンス

屋久島国立公園内におけるルールやマナーを守りましょう！

梅雨も終盤。海、川や山など、アウトドアでのレジャーを楽しむことが多くなる時期を迎えます。屋久島の42%と口永良部島の全域は屋久島国立公園に指定されています(右図)。公園においては、自然特性や利用特性を踏まえたルールやマナーがあります。それらを守って、安全に楽しく利用しましょう。



公園全域でのルール (法律で規制されています)



一部の動植物、場所によっては**全ての動植物を許可なく採取してはいけません。**



緊急時を除き、**キャンプは決められた場所以外ではしないでください。**テントやタープなどの設置は規制の対象となります。

屋久島国立公園区域図
(●の部分)



野生動物に餌を与えないでください。行動様式の変化により、生態系への影響および、交通事故や人・動物のケガなどトラブルの原因となります。

屋久島町では「猿のえ付け」は条例で禁止されています

公園全域でのマナー 自然と他者に思いやりを持って接しましょう



ごみは捨てずに持ち帰りましょう。景観を守るとともに、快適な利用環境を維持します。また、食品ごみの臭いによる野生動物の誘引を防ぎます。



安全運転を心がけましょう。野生動物との衝突は、人身事故につながるだけではなく、野生動物の生存を脅かします。**永田いなか浜・前浜、田代海岸**は車・自転車等の**乗入れ規制**があります。

山でのマナー



無理のない行動計画を立てましょう。特に登山では、天候や登山道状況を事前に入手し、**登山届**を出しましょう。

木道や歩道から外れずに歩きましょう。道迷いを防ぐとともに、土が削られることによる自然環境の変化を防ぎます。



トイレを事前に確認しましょう。事前にトイレを済ませるか、携帯トイレを使用しましょう。排泄物による水質汚染や土壌汚染、動植物への影響を防ぎます。

永田浜ウミガメ観察ルール

- ・20時～翌朝5時浜への立入りはしない。
- ・ウミガメ保護柵内への立入りはしない。
- ・焚き火はしない。
- ・砂浜の砂や石は採らない。



※ここでは国立公園マナーブック等の一部を紹介しています。

ヤマビル

高温多湿の今の季節、巡視に行くと、多くの場合にある生き物に遭遇します。それはヤマビルです。気づかない間に、体のどこかを吸血され、巡視から帰ると血まみれになっていることがあります。大人気？の巡視土産です。

吸血されないための簡単な対策として、**ズボンの裾を靴下に入れることや忌避スプレーを足下に吹き付けることで、足下から来るヤマビルを避けることができます。**ただし、対策しても吸血されることもあります。もし、吸血された場合は、ヤマビルを除去し、傷口を水や消毒用アルコールで洗い、絆創膏などで止血しましょう。ヤマビルは、手でも除去できますが、塩やアルコールを使うと簡単に除去できます。かゆみなどが収まらない場合は、医療機関にご相談を。

屋久島世界遺産センターでは、**ヤマビルの展示飼育を始めて、もうすぐ1年が経過**します。昨年は体内で卵が確認されましたが産卵には至りませんでした。現在は、昨年より飼育している1個体のみの展示ですが、島の生き物の普及啓発として飼育個体数を増やすことを検討中です。当センターを訪問した際には、ぜひご覧頂ければと思います。びったんぱったんとかまる先を探す姿は愛嬌たっぷりです。



飼育個体



よく見るヤマビル



卵が体内にある状態